

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「聞こえづらい人とのコミュニケーション 10のコツ」

- 1 軽い難聴でも騒がしい所では言葉の聞き取りは低下します。補聴器や人工内耳は万能ではありません。できるだけ静かな所で会話をしましょう。
- 2 話し始める前に、聞こえづらい人（難聴児）の注意をこちらに向けることが大切です。肩を軽くたたいたり、手を振ったり、近くまで寄って行くなどの配慮をしましょう。見ていないときに話さないようにしましょう。
- 3 聞こえづらい人と顔を合わせ、会話の間は視線を外さないようにしましょう。通訳を介したり、聞こえる人へも同時に話し掛けるときは、通訳や聞こえる人に向かってではなく、聞こえづらい人に顔を向けて話しましょう。
- 4 聞こえづらい人は、すぐ横から話し掛けられても気付かず、話も分からないことが多いです。物の影にならないように、少し離れて、しかし遠くない位置から、こちらの口元や顔がはっきり見えるように話しましょう。
- 5 話しているときは、食べたり飲んだり、口元を手で隠したりしないようにしましょう。
- 6 電灯や窓等の光を背にしないよう、こちらの顔や口元が見える位置で話しましょう。
- 7 はっきりと、しかし普通の会話のテンポで話しましょう。語の音や口形がゆがまないよう、口の動きを誇張しすぎたり、大声を出さないようにしましょう。
- 8 顔の表情やジェスチャーを付けることで、伝えたいことが、よりはっきりします。恥ずかしがらずに表情豊かに話しましょう。
- 9 同時に二人の人が話さないように気を付けましょう。順番に、相手が注目してから話し始めましょう。
- 10 話したいことがきちんと伝わっているか、ただ頷いているだけか、相手の表情をしっかり見極めましょう。必要ならば鉛筆と紙を使って絵や文字を書いたり、視覚的に分かる方法を使いましょう。

「聴覚障害サポートハンドブック お子さんの耳がきこえない」といわれたら 全国早期支援研究協議会編より

聞こえづらい子どもには「ないと困る支援」であり、どの子どもにも「あると便利で役に立つ支援」です。人間の聴覚は「必要な音（教師の指示等）」のみを拾うとしますが、他の音（友達の話し声や車の音）が邪魔をします。静けさは最大の支援です。不要な音を減らし、伝わりやすい話し方をするとともに、挙手をして指名されたら「はい」と返事をして発表する、聞くときは話をする人に体（おへそ）を向けて傾きながら聞くなど、子どもと一緒に「学習のルール」を作りましょう。



とれたて直送便



「どうして学校に行くの？」

もし子どもに「どうして学校に行くの？」と聞かれたら、どのように答えますか。「勉強は家で一人だけでやるより、みんなとやるほうが楽しいから」、「社会に出る前に、いろんな人たちとどう関わっていくかを学ぶ場だから」、「自分の得意なことや苦手なことを知ることができるから」、「個性って、一人じゃ分からないから」、「学んで変わるためには、仲間が必要だから」、「人と関わることで、知らない自分を見付けられるから」・・・。

子どもたちは、先生の姿から、「学ぶ楽しさ」に気付き、「学校に通う理由」を見付けます。ぜひ子どもにとって、「憧れの存在」になってください。